

# 大阪府景気観測調査結果

平成22年4～6月期

商工労働部（大阪産業経済リサーチセンター）では、府内企業を対象として四半期毎に、大阪市と協力して景気観測調査を実施しております。平成22年4～6月期の調査結果の概要は次のとおりです。

[ 景気は一部に厳しさは残るものの、持ち直している ]

業況判断D Iのマイナス幅縮小が続いている。出荷・売上高D I、製・商品単価D I、営業利益判断・水準D Iは上昇傾向にある。また、資金繰りが改善し、雇用状況も改善傾向にある。ただし営業利益や雇用の水準は低い。なお、来期の業況見通しは、改善の見込みが少ない。

[ 調査結果の要点（平成22年4～6月期） ]

## 業況判断 ... マイナス幅の縮小が続く

平成22年4～6月期の業況判断D I（「上昇」 - 「下降」企業割合；前期比、季節調整済）は - 26.0 となり、前回調査（22年1～3月期）と比べ、1.2ポイント上昇。業種別や規模別では、前回調査と比べ、製造業で4.2ポイント低下、非製造業で3.5ポイント上昇、大企業で0.7ポイント低下、中小企業で0.9ポイント上昇。

業況判断（前期比）の上昇要因を前年同期の調査と比べると、「内需の回復」、「輸出の回復」などが増加。他方、下降要因では「季節的要因」、「原材料価格やコストの上昇」、「他社との競争状況」などが増加。

## 出荷・売上高 ... 低下のペースは緩んでいる

出荷・売上高D I（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 27.8 となった。前年同期の調査と比べ26.0ポイント上昇し、前期比でも10.9ポイント上昇と、3期ぶりに2桁の上昇となった。前回調査と比べ、製造業で3.6ポイント上昇、非製造業で14.6ポイント上昇、大企業で15.5ポイント上昇、中小企業で10.1ポイント上昇。

## 製・商品単価及び原材料価格 ... 製・商品単価は2期連続の改善、原材料価格は上昇が続く

製・商品単価D I（「上昇」 - 「下落」企業割合）は、前回調査と比べ10.1ポイント上昇の - 22.7。原材料価格D I（「上昇」 - 「下落」企業割合）は、前回調査と比べ13.4ポイント上昇の19.9である。

## 営業利益 ... 上昇するも、赤字基調が続く

営業利益判断D I（「黒字」 - 「赤字」企業割合）は - 19.7 と、前回調査と比べ、7.7ポイント上昇。製造業で9.5ポイント上昇、非製造業で6.7ポイント上昇、大企業で8.9ポイント上昇、中小企業で7.4ポイント上昇。

営業利益水準D I（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 27.2 と、前回調査と比べ11.2ポイントの上昇。規模別では、大企業は13.3ポイント上昇、中小企業は10.3ポイント上昇。

## 資金繰り ... 厳しさは残るが、改善が進む

資金繰りD I（「順調」 - 「窮屈」企業割合）は - 4.6 と、前回調査と比べ8.6ポイント上昇（前回調査時のD Iは前期比0.8ポイント上昇）。

## 設備投資 ... 下げ止まっている

設備投資は前回調査と比較して「増加」は上昇、「横ばい」は上昇、「減少」は低下、「なし」は上昇となった。前年同期の結果と比較しても、「増加」は上昇、「減少」は低下、「なし」は低下と、設備投資は下げ止まっている。

## 雇用状況 ... 改善傾向が続くが、「過剰」が「不足」を未だ上回る

雇用過剰感D I（「過剰」 - 「不足」企業割合）は7.6であり、前回調査より3.6ポイント改善。22年7～9月期の雇用予定人員D I（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 7.0 で、前年同期の調査と比べ5.4ポイント上昇。

## 来期の業況見通し ... ほぼ横ばいの見通し

22年7～9月期の業況見通しD I（「上昇」 - 「下降」企業割合；季節調整済）は - 26.3 と、今期業況判断（季節調整済）と比べ0.3ポイント低下と、ほぼ横ばいの見通しである。

調査結果に関するお問い合わせは (06)6947-4363

商工労働部（大阪産業経済リサーチセンター）経済リサーチグループまで

22年4月、旧の府立産業開発研究所は商工労働部総務課に統合し、「大阪産業経済リサーチセンター」として再編されました。